

年金裁判 最高裁へ 大阪高裁不当判決

4月28日、大阪高裁は「年金引き下げは違憲」控訴審で、大阪地裁判決での原告の請求をすべて棄却した一審判決を支持し、控訴を棄却しました。これまで8年間、原告として奮闘してこられた方々のうち、お2人に悔しさ、今後への思いをお聞きしました。

女性部だより

年金者組合
京都府本部
女性部発行
2023年
6月15日発行
(第188号)

「たすけあい 介護サービス」

年金者組合員は介護保険制度を利用した福祉用具使用時の利用者負担分(1割)の助成を受けられます。ベッド、車いすなど13種類。まずは相談してください。

受付窓口

03-6256-8967

- ・全労連共済共済事業会
- ・日本フロンティアネットワーク

思い返せば8年前、「若い人も高齢者も安心して暮らせる年金を」と訴えてきた裁判闘争。裁判官はもつと賢くあってほしい。しかし、負けたわけではなく、論戦では勝っています。

新たに闘いののろしをあげようと最高裁への上告を決意。現在93名が委任状を提出しています。まさに「裁判官は政府答弁のコピペ」。財政の均衡を保つという根拠は違う。判断を退ける根

拠とはならない。世代間の公平というが、結果として分断しているといわざるをえない。少子化の問題も。政府が政治の責任を投げ出した結果で、社会保障は政治の責任だと、改めて怒りを感じました。

福知山支部 堀 昭子
(機関紙「これからだ」から転載)



怒りがこみ上がる、悔しい判決だ。裁判官は、どんな立場で臨まれるのか? 私たちは生活実態を、毎回陳述(私も訴えた)してきたし、高齢者が毎回どんな思いで京都から大阪へ足を運んできたか。裁判官は国の考えている方向の判決しか考えず、自分の考え、気持ちを持つことはないのだろうか。国民の声を聞く耳がないのだろうか。国の誰かの顔をうかがって裁判をしているなら大問題ではないかと思う。

おかしいのは被告である国の発言がないまま裁判が進み、判決が出るということ。札幌の香取証人はどうなったのか? 最高裁ではきちんと憲法判断してほしい。これからの年金問題は、若い人たち、現役労働者に関心を持つことが大切だと思う。誰もが安心して暮らせる年金制度にしなくては。

南支部 畑山千鶴子

高裁判決報告集会

5月26日高裁判決報告集会は52人の参加で会場は満員でした。

森川弁護士から「国は減額の根拠を示せなかった。少子高齢化はわかっていたし、また年金基金が全く使われていないことから高裁判決はきわめて不当」という報告。

また、生活保護裁判の森田弁護士のお話が、年金裁判を考える上で大変参考になる内容でした。「年金裁判は法律を相手に、生保裁判は行政の告知を問題にしているので難しさが違う。生保裁判は判決文のコピペ問題が大きな怒りと変化のきっかけになった。生保基準は最低賃金や就学援助金など多くの基準になっており、生保受給者だけの問題でない。弁護士は理屈で闘うが、運動を広げる、マスコミも巻き込む、そして格差を傍観する社会を是とすることなのかという運動にしていくことが大切」と話されました。(栗倉)

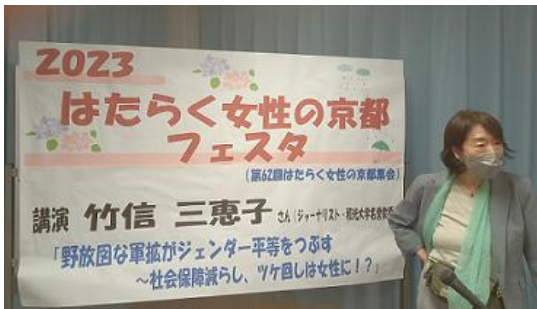
女性(部)総会のお知らせ

日時 7月5日(水)午後1時30分
 会場 教文センター301会議室
 議題 活動総括、今年度の活動方針
 会計報告、予算案など
 参加者名を6月中にご連絡ください。

各支部から必ず1人は出席してください。
 交通費1人分は本部女性部が負担します。



伏見支部の有本千恵子さんが個人展をされました。女性部もみんなで見学にきました。



6月4日、教文センターで「はたらく女性の京都フェスタ」が開かれ、竹信三恵子さん(ジャーナリスト・和光大名誉教授)が「野放図な軍拡がジェンダー平等をつぶす」と題してお話されました。

「女性パートは家計補助」「夫がいるから減収しても困らない」などとして非正規で働く女性の賃金は低いまま。しかし、全体的実質賃金が下がっているため、いまや妻の家計への貢献度は非正規でも2割となっています。

ところで政府はいま43兆円もの軍拡を進めようとしていて、その財源のひとつに「独立行政法人の積立金」を挙げています。これは病院など生活に密着した資金であ

り、暮らしに資金を投入する、押し返す女性のための活動、軍資金の替り、生活費への移し替



発言する 粟倉さん

パートの一人ストライキが5千人の賃上げにつながった例を紹介されました。必要なのは正確な情報とネットワーク作り、使える制度は使い倒す、小さな成功体験の積み重ねが大切です、と励ましてもらいました。(矢吹)

「若者が高齢者のわりを食ってる、全世代の負担で」が政府や京都市の決まり文句です。ほんと？高齢者の負担感の大きいものは国民健康保険や介護保険、税金、水光熱費と生きるために必要なものです。若い人も取られ過ぎ。働いても働いても、半分近くは所得税や住民税、消費税、社会保険料などで引かれ、戦争準備に使われそう。異次元の少子化対策というなら給料上げて。世代間対立で対立あおる政府にはノーをつきつけ、給料上げて、最低保障年金制度作ってと声をあげましょう。

ほんとにいいところ、なくてはならないところ 西京支部

5月30日の女性の総会に伺いました。コロナで2年半ぶりの総会、予定より参加希望者が多くて大きな集会所に変更したと言うことにまず感動。議案書を丁寧に読み上げ報告された後、全員発言。自己紹介から始まって入院歴のこと、サークルのこと、くらしのこと、お助けし隊への感謝、鶴田浩二のこと、医療生協のこと、時間もち(金持ちじゃないけれど)



を楽しんでいること、92歳の方がお二人、などなど、35人の発言を「前向きやなあ」と聞いていると、「みなさんの話を聞いて、年金者組合はほんとにいいところ、なくてはならないところだった」という発言が出て、「ほんまに、そのとおり!」と思いました。新しい役員さんも紹介確認されて、お弁当のあとは支部書記長さんを講師に介護問題での学習をされました。(粟倉)